

- 21世紀 心の時代に
一つの器にはまらなくていい〜三流の勧め
安田 登……………1
- 道徳授業 私の実践
 - ・ロイノートのシンキングツールを活用した道徳授業
田中千映……………4
 - ・情報モラル教育の普及型教材パッケージの開発
杉谷義和……………6
- SDGs×道徳……………8
- どうなるこれからの道徳授業……………10

道徳 ジャーナル

21世紀 心の時代に

一つの器にはまらなくていい〜三流の勧め

“一流”にこだわらない生き方を

去年、『三流のすすめ』という本を書いた。詳しくは後述するが、「三流」とは、いろいろなことをする人という。

今までに書いた本は五十冊になろうとしている。自分の職業である能楽以外に関する本のほうが多い。

最初に執筆に携わったのは二十代の頃で、漢和辞典の熟語を担当した。それからエイズの本を書き、3DCGの本も書いた。ゲームの攻略本も書いたし、風水の本も書いた。むろん能の本も書いているし、古典の本も多く書いている。身体系の本も書いたし、児童文学も書いている。

舞台もいろいろだ。能の舞台にはむろん出て

いる。それは当たり前。それ以外にも、例えば金沢21世紀美術館などの委嘱で、泉鏡花や夏目漱石、小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）などの作品の上演もしている。シュメール語という古代言語で神話の上演もし、これは海外でも公演している。

また、関西大学に特任教授として赴任しているが、教えているのは総合情報学部。VRなどのメタバースと古典との関係の授業を担当している。Eテレ（NHK）の「100分de名著」という番組では『平家物語』の話と朗読をし、今年七月は同番組で『太平記』の話をする。

要は何者だか分からない、怪しい人間である。あれかこれかではなく、あれもこれもものである。こういう人間は人から信頼されない。毛嫌いする人も多いだろう。

これが「三流」である。



下掛宝生流ワキ方能楽師

安田 登



能「藤戸」より。ワキ（佐々木三郎盛綱）を演じる。

『人物志』という本がある。三国志の時代、曹操で有名な魏の国の劉劭りゅうせうという人物が書いた。彼は、曹操の孫・曹叅そうさいという皇帝から「大臣をどのような人物に任せたらいいか」と問われ、それに答える形で書いたのが『人物志』だ。

その中に「一流」の人という言葉が出てくる。「一流」というのはひとつの流儀、すなわちひとつの分野の専門家を指す。そういう人に国を任せてはいけないと言う。例えば法律の専門家に国を任せる。そうすると、法に則らないことを「悪」として排斥してしまうからだ。では二流の人はどうかというと、それも駄目だと言う。

国を任せることができる人は、さまざまなことをする「三流」以上の人だと劉劭は言う。いろいろなことができなければ、視野も度量も狭

くなる。そんな人に国家のリーダーを任せることはできないというのである。

これは中国の伝統だ。

『論語』で有名な孔子は「君子は器ならず」と言った。「器」というのは、ひとつの用途に特化したものをいう。君子はそうではない。さまざまなことをしなければいけない。現代的に言えば、スペシャリストではなく、ジェネラリストになれと言うのだ。

中国だけではない。能を大成した世阿弥は「初心忘るべからず」と言った。初心の「初」の字は、左（偏）は「衣」、右（旁）は「刀」である。衣を作るときには、まず反物にハサミを入れる。その行為が「初」という漢字の原義だ。

どんなに美しく織られた反物でも、それにハサミを入れなければ衣を作ることはいけない。人も同じだ。次のステージに行くためには、過去の自分にハサミを入れなければならない。それがどんなに素晴らしい業績であっても、自分の過去をバツサリと切り捨てる、それが「初心」である。

「自分の専門はこれだから」「自分ができるのはこれだけだ」と一流に固執してはいけない。そう世阿弥は言う。世阿弥は「住するところなき（とどまらないこと）」「ことこそ「花」だと

も言った。

孔子も世阿弥も「三流」を勧めているのだ。

さまざまなことをする「三流」の人は、むしろその道の専門家にはなることは難しい。すべてが中途半端になる可能性もある。そこから今の三流の意味になるのだが、しかし本当に一流になれる人は、もともとそう多くはない。

例えばビジネスマンであれば、一流企業の社長、会長になって、初めて「一流」と言えるだろう。勝ち組、負け組という言葉がある。一流の人を勝ち組だとすれば、それ以外の人は負け組になる。もしそうであれば、ほとんどの人は負け組になってしまう。

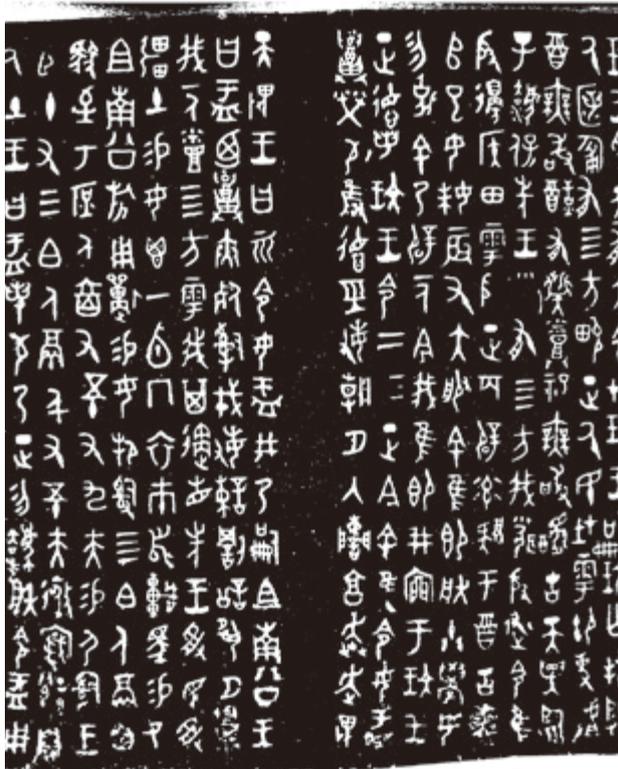
そんな社会は変えようと思って『三流のすすめ』を書いた。一流にこだわらずに、もっとゆったり生きる手もあるよ、というつもりで書いたのだ。

「徳」とは、自分で書き換えるもの

道徳の「徳」という字も、ゆったりさを勧める字である。

「徳」という字は、紀元前一〇〇三年の周の時代の『大孟鼎』という青銅器の銘文に現れる。

『大孟鼎』には、徳に対する意味を持つ字として「井」という字も現れる。「井」は、井の



『大孟鼎（だいうてい）』



「徳」



「井」

形をした鑄型（範型）を意味する。「井」から「刑」や「型」という漢字もできる。「井」とは型にはめることをいい、そこから外れた人を「刑」に処す。すなわち「井」とは、現代の法に当たる。

「井」＝法とは「くすべきだ」「くしてはいけない」という禁止の命令をいう。

それに対して「徳」は、左側（偏）である「イ」は「行」の省略形で、「行」は十字路が原義だ。傍の上は「目でまっすぐ見ること」を意味する字で、今の漢字にすれば「直」になる。それに「心」が付いたのが「徳」だ。

すなわち徳とは「この道を行くといいよ」と教えてくれることをいう。「そのようなことをしてはいけない」というのが法であるのに対して、「こうするといいいよ」と教えるのが徳である。

また、法は「他律的（ヘテロノミー）」であるが、徳は「自律的（オートノミー）」である。他律的とは、他者が決めたルールに従うことといい、自律的とは自分が決めたルールに従うことをいう。

他者が決めたことがどうも合わないと感じたら、自分で書き換えることを考える。それが徳なのである。

例えばアメリカで小学生時代を過ごして、授業中は積極的に発言する習慣を身につけた。ところが日本に戻って来て、同じようにすると周囲から「ウザイ

奴」と言われることもあるかもしれない。

これはこの子の問題ではないし、（あえて言えば）周囲の子の問題でもない。なぜなら日本がそういう社会だからだ。

むろん、社会を変えることも大切だ。しかし、クラスを変え、日本を変えるには時間がかかる。

孔子は「過ちては則ち改むるに憚ることなかれ」と言い、「まずは本人が、自分の中の徳のプログラミングを書き換えたほうが、話が早いわ」と提案する。ここでいう「過ち」は私たちのイメージするそれではない。通過の「過」であり、過剰の「過」をいう。

書き換えを躊躇する必要などない。「この状況にに応じて、自分はプログラミングを書き換えているだけなんだ」という自覚があれば、「本当の自分」はなくなる。

そのように柔軟に変化する習慣を身につけることが「徳」だ。徳を身に付けていけば、どんな社会でもどんな分野に出くわしても、うまく生きていくことができる。

私が考える道徳とは、社会規範や法などの型にはめることでは断じてない。このようなゆるやかさを身につけ、一流にこだわらず三流の人になる生き方も、選択肢に入れることを提案したい。

（やすだ のぼる）

道徳授業私の実践

和歌山大学教育学部附属小学校
教諭
田中 千映

そのまま見過ごすか迷うひろ子の心の葛藤を考える際に、シンキングツールの中にある「キャンディーチャート」を活用する。

授業の実際

【導入】

学習課題「友達との関わりで大切なことについて考える」を提示し、「友達の間違ったことをしていたらどうするか」を尋ねた。

- ・教える（注意する）
- ・先生に言ってもらう
- ・眺める（何も言わない）

また、「教える」と言う子も、状況によっては何も言わなかったり、先生に言ってもらったりすると答えた。

【展開】

正子から葉書をもらったとき、ひろ子はどんな気持ちになったでしょう。

- ・わざわざ送ってくれてうれしい
 - ・転校して行ったのに覚えていてくれてうれしい、ありがとう
 - ・自分も返事を返したい
- 子どもたちは、正子から葉書をもら

ロイロノートのシンキングツールを 活用した道徳授業

GIGAスクール構想のもと、本校でも一人一台端末が導入され、子どもたちは、さまざまな教科・領域等で端末を使い、情報を調べたり、プレゼンテーションを作成したりしている。また、その際には「ロイロノート・スクール」（以下、ロイロノート）を活用することが多い。そこで、道徳科においてロイロノートをどのように活用できるか考え、取り組んだ。

ロイロノートは、オンライン上で学べる双方向型授業支援システムである。デジタルのカードを使って、教師から子どもに資料を送ったり、子どもが

教師に課題を提出したりすることができ。また、子ども同士で送り合うこともでき、全員のカードを集めてクラスで共有することもできる。カメラ・テキスト・ウェブ・ファイル・シンキングツールなどのさまざまなメディアも入っている。

授業の概要

- 主題名 友達ならどうする
- 内容項目 友情、信頼
- 教材名 「絵葉書と切手」〔新・みんなのどうとく 3〕学研

○教材の概要 転校した正子からひろ子に絵葉書が届く。しかし、定形外のため料金不足であった。兄からは、「友達なら、定形外ということを教えてあげたほうがいい」と言われる。ひろ子は返事を書こうとするが、料金不足のことを書くか迷い母親に相談する。母親は「お礼だけ書いたほうがいいかもしれない」と言う。ひろ子は迷った末、料金不足のことを書くことに決める。

○ねらい 友達と互いに理解し、信頼し、助け合おうとする心情を育てる。

○ロイロノートのシンキングツールの活用場面 本当のことを知らせるか、

ったうれしさや、正子への感謝の気持ちに共感していた。

母と兄の意見を聞いて、ひろ子はどんなことを迷っていたのでしょうか。

「伝えた場合」と「伝えない場合」の「結果(どうなる)」と「その理由」を、ロイロノートの「キャンディーチャート」に書き込んだ。



その後、全体で「伝えた場合」と「伝えない場合」について意見の交流を行った。

◇もし伝えたら……

・正子が恥をかく

↓正子は自分が失礼だったと思ってしまう

・正子が悲しむ、傷つく

↓正子はお金を払ってもらったことにシヨックを受ける

・正子に失礼だと思われる

↓せっかく絵葉書を送ったのに……

◇もし伝えなかつたら……

・また同じ間違いを繰り返してしまう

・他の人も嫌な気持ちになってしまう

↓送られた人がお金を払うことが続く

・正子が成長できない

・正子が恥をかく

↓大人になっても切手代が六十三円

↓と思ってしまう

・正子が他の人から失礼だと思われ

しまう

↓知らなくて送り続けてしまう

・他の人がきつい言葉で正子に伝える

かもしれない。正子が傷つく

↓自分なら優しい言葉で伝えることができる

・自分(ひろ子)も知らなかつたと思

われる

・「何で教えてくれなかつたの」と正

子に思われてしまう

意見を交流していく中で、「伝える

ほうが正子のメリットが多い」と子ど

もたちの中から出てきた。また、本当

のことを伝えた方が正子の今後のため

になることにも気付く発言が見られた。

最後に「自分が正子だったら、伝え

てほしいか」を問うと、全員が「伝え

てほしい」と答えた。しかし、「きつ

く言われたら嫌だ」と、伝え方にも工夫が必要であると考える姿が見られた。

【終末】

日頃より、学習課題に対する自分な

りの答えと、授業の振り返りを書くよ

うにしている。本実践でも同様にした。

友達との関わりで大切なことは？

友達がした間違いは、相手の気持ちを考えて教える

今日学んだことは、友達が間違っていたら、注意

(教えてあげる)したほうが相手のためになるとい

うことです。伝えなかつたら、他の人にまた迷惑が

かかる。私は、相手の友達のために教えてあげた

いなと思えました。今までは、相手が悲しむとい

ことは考えていなかったけれど、これからは、悲し

むという言葉を考えてながら、いい言葉を選んで教

てあげることができたらいいと思います。伝えな

かつたほうのデメリットが多いし、伝えるほうが相手

にとってメリットも多いので、教えてあげようと思

います。

おわりに

ロイロノートの「キャンディーチャ

ート」を活用したことで、一人一人が

「伝えた場合」と「伝えない場合」の

「結果」と「その理由」を予想・整理

しながら考えることができた。

ワークシートでも同様のことができ

るが、全員の考えをクラス全体で共有

することは難しい。ロイロノートの

「回答共有」という機能を使えば、友達が書いたカードを見ることが出来る。

授業後に回答共有を行った。子ども

たちは授業の中では発言できなかった

友達のことを知ることができた。ま

た、修正が容易にできるといふよさも

あり、授業後さらに自分のキャンディ

ーチャートに「結果」と「その理由」

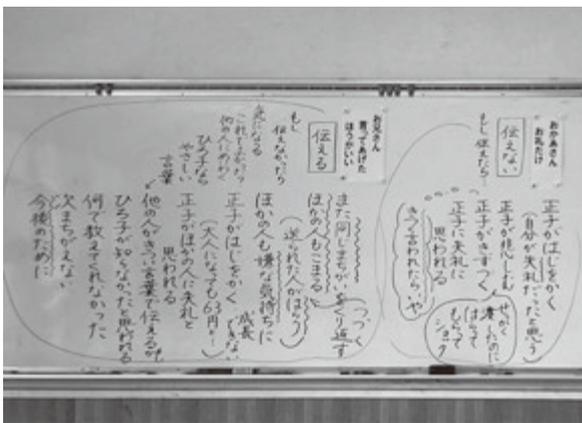
を書き加える姿も見られた。

ロイロノートの機能を活用すること

で、学びの深まりや広がり期待でき

る。今後もどのように有効活用でき

かを考えていきたい。



(たなか ちえ)

道徳授業私の実践

鳥取県八頭町立船岡小学校
教諭
杉谷 義和

情報モラル教育の普及型教材パッケージの開発

自作教材を組み込んだ著作権学習の実践を通して

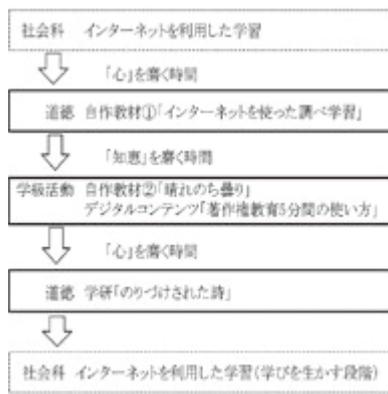
はじめに

平成二十年に告示された「学習指導要領解説道徳編」に続き、平成二十九年の「学習指導要領解説 特別の教科道徳編」においても、現代的な課題として情報モラル教育の必要性が明記された。小学校学習指導要領において、情報モラル教育に関する記述が多いのは「特別の教科道徳編」であることや、今後、児童の校外でのICT活用が増えることから、情報モラル教育が極めて重要であると考えられる。

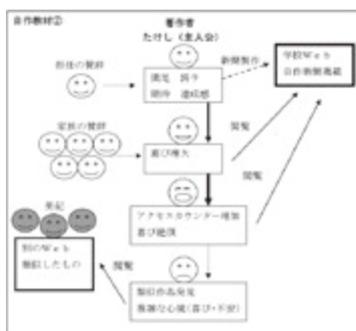
情報モラル教育で大切なのは、心と知恵を一体的に指導することである。しかし、実際は、適切な行為を促したり、関連する教材を一単位時間で指導したりすることに終始している。そこで、道徳科における著作権学習のための「著作物利用者」の心情を中心とした読み物教材と「著作者」の心情を中心とした読み物教材の二編を作成し、道徳科を要として、社会科の調べ学習や学級活動との関連を図る著作権単元のデザインを試みた(図一)。

読み物教材の開発

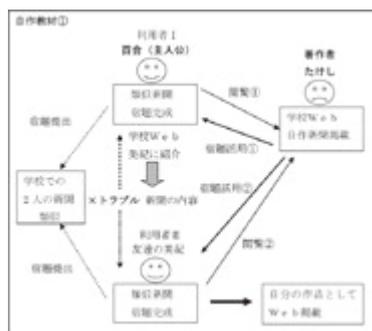
読み物教材を開発するにあたり、単元構成と関連づけるため、インターネット



図一 単元構成図



図三 自作教材②の概略



図二 自作教材①の概略

ットを利用した調べ学習の場面を取り上げることにした。「著作者」と「利用者」、誰もがどちらの立場にもなり得ることから、両者の立場に立って考えを深められるよう、自作教材①は、「インターネットを使った調べ学習」と題し、著作権について利用者の立場から(図II)、自作教材②は「晴れのち曇り」と題し、著作者の立場から考えさせるものを作成した(図III)。

実践と考察（六年生）

○道徳科（自作教材①）

第一時では、インターネットを利用する側の配慮を欠く行為から生じた著作権の問題を取り扱った自作教材「インターネットを使った調べ学習」（規則の尊重）で授業を行った。ここでの反応は、主人公の行為に対して、「ずるい」「ずるくない」の意見に二分された。「ずるい」と主張した児童からは、「人が一生懸命作ったものを自分が作ったかのようにしている」「作った人の許可をもらっていない」という意見が出され、「ずるくない」と主張した児童からは、「学校図書館で調べ学習をするときに写すことはよくあるから、インターネットの世界でも問題ない」という意見が出された。

しかし、話し合いを進めていくと、利用者も著作者もお互い気持ちよく情報を活用するためには、利用者側が、まず著作者の存在を尊重して利用の仕方を考えることが大切だという方向に向かった。以下、児童の感想である。「人の作ったものを勝手にまねすると、

トラブルのもとになるので、許可をとることやできるだけ自分で考える姿勢が大事だと思いました。」「今までの自分は、著作権を守っていなかったんだと思いました。」「参考にするのはいいけれど、自分の作品として発表するのはいけないと思いました。」「

第一時の実践では、利用者としての立場から、自分と著作権との在り方を考えることができた。

○学級活動（自作教材②）

第二時では、導入で自作教材を範読し、著作者の心情を考えさせた後、第一時の児童の感想文から問題提起を図ったり、学校生活に関わる著作権の問題の事例を挙げたりしながら（文化庁デジタルコンテンツ「著作権教育5分間の使い方」活用）、理解を深めていった。以下、児童の感想である。「著作者の喜ぶ気持ちや不安な気持ちを考えることができました。」「人が頑張ったものを楽してコピーするのはだめ。作った人の気持ちを考えて！」「私たちの絵、作文、詩などにも著作権があることが分かりました。」「

第二時の実践では、法的根拠を学び、著作権を大切にしていこうとする思い

を持つことができた。

○道徳科（「のりづけされた詩」『新・みんなの道徳 6』学研）

第三時では、広く著作権を考えるため、図書を題材とした教材を用いて、思考力・判断力をより高めることをねらいとした実践を行った。以下、児童の感想である。「人のまねばかりしていたら自分の成長につながらないと思いました。」「人の作品を写すのはよくないことだと思いました。自分の作品にはならないし、悩みや後悔がずっと心に残るからです。」「

第三時は、内容項目（正直、誠実）で授業を行ったが、多くの児童が著作権問題から生じる著作者や利用者の心情を考えながら自分事として振り返っていた。こ



役割演技の様子

れまで多面的・多角的に考え、心情面と知識面の両面でアプローチしてきたことが功を奏したと考え

られる。その後のインターネットを利用した社会科の学習では、参考図書や引用を明らかにするなど、著作権を尊重する態度が著しく向上した。

さらに、より確かな実践にするために次の点を大切にしたい。①児童に気付けさせることの大切さをベースとした道徳科学習の指導観を確認すること。

②教科横断的な学びを継続し、単元の学習とつなげること。③事例の選択は、学習中の児童の発言や感想文、学級の実態を考慮すること。④学校は著作物の宝庫であることを認識し、教師自身が著作権リテラシーを磨くこと。

おわりに

ともすると、指導が即効性のみを目指したものになりがちである。しかし、情報モラルを始めとする心の教育は、地道に継続的に行わなければならない。本単元をきっかけとして、情報モラルのトピックを各教科・領域から適切に掘り起こして、今後の指導に役立てていきたい。

（すぎたに よしかず）

SDGs× 道徳

連載 第10回

●「FURUSATO MIRAI MEETING」開催の目的と経緯

私たち教員は、子どもたちが社会で活躍する時代を見据え、学びがどう「生きる力」につながるのかを考え、子どもたちが知的好奇心を持つことができる授業の開発に取り組まなければならない。

そこで、学びとは「新しい価値との出会い」と位置づけ、日本各地の学校とオンラインでつながり、「学びの交流プラットフォーム」を形成し、互いの学びを深め合うことを目的とした「FURUSATO MIRAI MEETING」をスタートした。

この「学びの交流プラットフォーム」では、各校がSDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けた教育活動を展開し、オンラインで交流しながら、何が必要なのか、どんなことで協力し合えるのかを考えてきた。

例えば、2021年7月に4校（奈良県奈良市立都祁小学校、平城小学校、辰市小学校、鹿児島県屋久島町立安房小学校）で行った「FURUSATO MIRAI MEETING 2021 1st」では、残留塩素やpH、軟水硬水の数値を測り、各地域の水の状況を比べ、きれいな水を海まで届けるにはどうしたらよいかを考えた。

2学期には、鹿児島県龍郷町立赤徳小中学校や屋久島町立一湊小学校と交流を行った。中流の川で捨てられたごみをウミガメが食べ、死んでいることを知り、ごみ拾いをし



各地の学校や関係機関をオンラインでつなぎ、交流した。

FURUSATO MIRAI MEETING

各地の学校と交流し、住み続けられる町づくりを考える

奈良県奈良市立辰市小学校 教頭 岸下哲史



各校スライドや映像を活用し、工夫を凝らした発表を行った。

たり、ごみを捨てないように呼びかけるために、PR動画を作成したりした。

また、東京都小笠原村立母島小中学校との交流では、消防署や奈良県の河川課の方から学んだ災害のことを伝えた。この交流で、母島小中学校では津波を意識した防災について学んでいることを知り、海のない奈良県に住む子どもたちにとっては、とても新鮮な学びとなった。

3学期には、北海道斜里町立朝日小学校と交流を行った。子どもたちは、自分たちの町にはない雄大な自然や、自分たちの町と同じように地域で受け継がれている伝統文化「しれとこ斜里ねぶた」について学ぶことができた。

学校外の関係機関ともオンラインによる学びの場を設定してきた。奄美野生生物保護センターからは、アマミノクロウサギの保護について、白神山地世界遺産センターからは、豊かな森を守るために大切なことなどを教えてもらった。さまざまな機関の方々と複数の学校と共に、オンラインによる学びの場を設定し、その都度互いにできることを考え合ってきた。

こうした交流を経て、1年間の学びの発表の場として、「FURUSATO MIRAI MEETING 2021 3rd 住み続けられる町づくりを」を開催した。

●各校の発表

●奈良県奈良市立椿井小学校

「わたしの町の世界遺産 ～そして未来へ～」

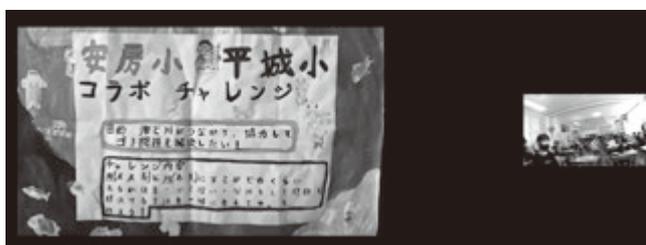
町のPR動画を作成し、動画のQRコードをつけたポスターを作成。奈良交通とコラボし、市内循環のバスにポスターをはり発信した。子どもたちが町を盛り上げた。

●龍郷町立赤徳小中学校「奄美のよさを伝えよう！」

学校のすぐ裏にある砂浜、島唄、郷土料理……。子どもたち一人一人が誇りに思う、奄美のよさを余すことなく伝えた。オンラインで奄美三線の生演奏を披露してくれた。

●屋久島町立安房小学校、奈良市立平城小学校 「安房小・平城小コラボチャレンジ ～屋久島と奈良が手を結びプラスチック汚染を解決しよう～」

屋久島の海と奈良の河川の課題をオンラインで伝え合い、その解決に向けて、ごみ拾いや調査など、共に考え行動した。こうして得た学びを基に世の中へ提案を行った。



●斜里町立朝日小学校「しれとこ斜里ねぶた祭」

斜里町と青森県弘前市との友好都市盟約がきっかけで始まった「しれとこ斜里ねぶた祭」。ねぶたの絵や楽器演奏に挑戦したことを発表した。

●小笠原村立母島小中学校「母島の海から考えるSDGs」

さまざまな国から流れ着く大量の海洋プラスチック。海岸の清掃作業を通して、海のごみ問題に国境はないことに気が付いた。

●奈良市立辰市小学校「住み続けられる町づくり」

私たちが幸せに暮らすためにはどうすればよいか問い続



細かく刻んだペットボトルのキャップからレコードを製作した。

けた1年間。フィールドワークやさまざまな人との出会いの中で得た答えと、明日への提案を行った。

●クロージングセレモニー ペットボトルレコード鑑賞

辰市小学校の児童は、さまざまな学校や企業、関係機関との交流、そして何より五感で感じられる体験学習を通して、「住み続けられる町づくり」について考えてきた。こうした学びを通して児童の心は大きく変化してきた。

そして自分たちができる第一歩として、登校中や放課後、自主的にごみ拾いを始めた。

また、各校それぞれに学んできたことの共通項として、マイクロプラスチックの問題があると考え、交流している学校にペットボトルのごみを集めることを呼びかけた。各校は集めたペットボトルを小さく切り、ペットボトルをリサイクルしてレコードを製作している FISHVOXの宮尾さんに届けた。

完成したペットボトルレコードに刻まれた音楽は、3月に閉校する奈良県吉野町立吉野小学校の校歌。今回の「FURUSATO MIRAI MEETING」でも交流する予定だった。「閉校しても、自分たちが大切にしてきた地域の誇りはいつまでも心のメロディーとして流れ続ける」そんなメッセージを込めて、レコード製作を児童と共に決めた。

レコードから流れる吉野小学校の校歌を聴き、「FURUSATO MIRAI MEETING 2021 3rd 住み続けられる町づくりを」は幕を閉じた。

●おわりに

2002年度から2020年度に発生した廃校の延べ数は8,580校（文部科学省、2021年5月1日時点）。学校を中心に同心円状に築かれた地域の文化が失われつつある。

こうした状況の中で、恵み豊かで持続可能な生活のために、脈々と受け継がれてきた地域の文化を大切に、身近な課題の解決に取り組むESDは大変重要になってきている。

このことを念頭に、屋久島や奈良市の学校では地域を学びのフィールドに、さまざまな学習課題に取り組んでいる。その学びを学校という閉ざされた空間で終わらせるのではなく、他の地域の学校と交流する中で多面的に捉えることが、より探究的な学びにつながると考える。屋久島と奈良市で始まった交流を伝えながら、各地の学校に学びの交流を依頼したことで、その輪はどんどん広がった。

GIGAスクール構想以前では考えられなかった、オンラインでつながり共に学び合える教育こそが、新しい時代を切り拓く生涯学習であり、知の循環型社会の構築につながっていくのではないかと期待している。今後も新しいチャレンジをチームで重ねていきたい。

どうなるこれからの道徳授業

連載16回 中学校の授業づくり編

とくちゃん



監修・法政大学兼任講師 廣瀬仁郎先生
マンガ・のはらあこ

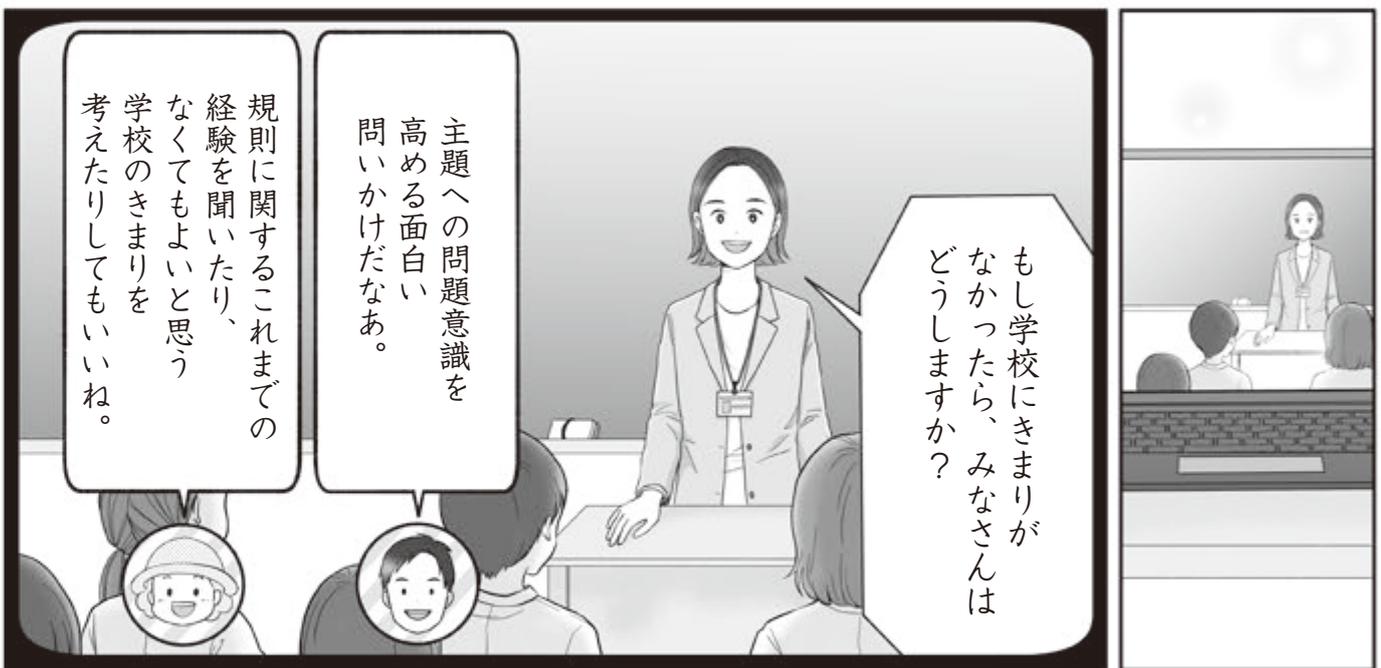


先生



中学三年生で「二通の手紙」を扱う道枝先生の授業を見てみようかな。

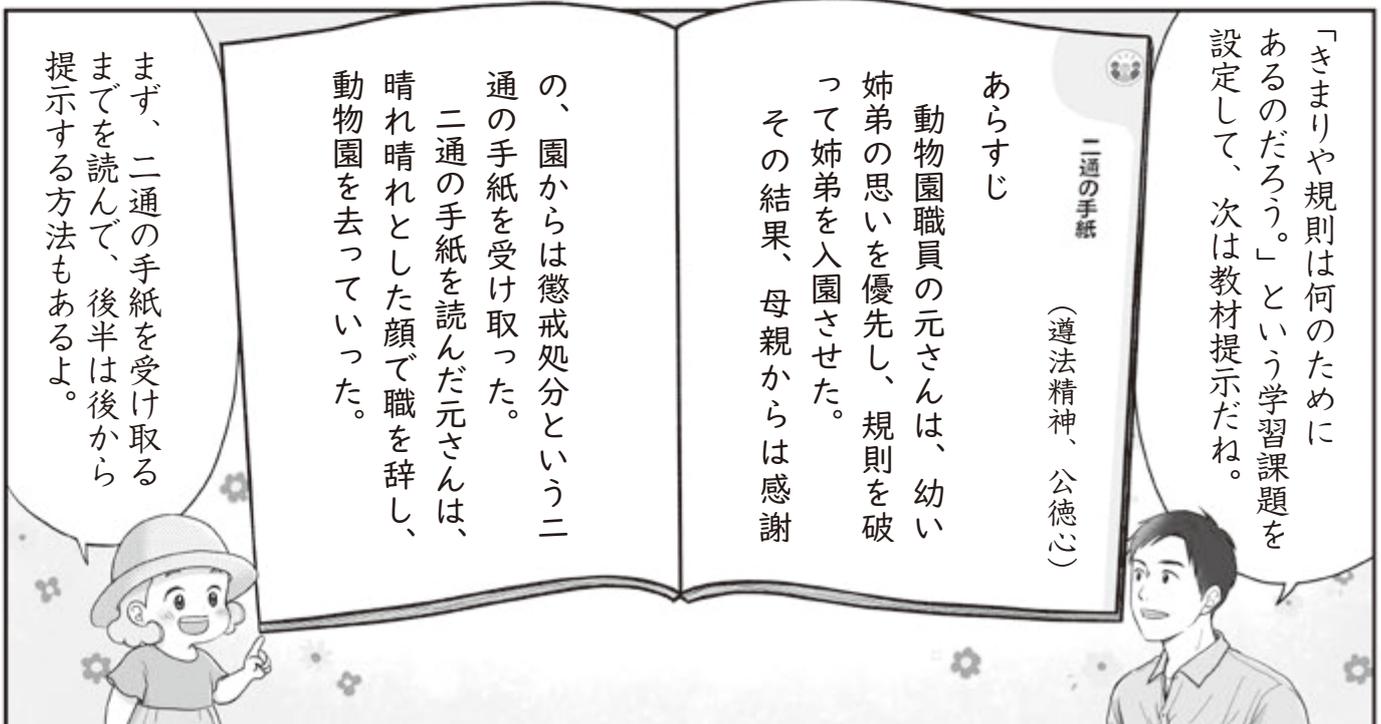
オンラインで開催される研究授業が増えてきたね。



規則に関するこれまでの経験を聞いたり、なくてもよいと思う学校のきまりを考えたりにいいね。

主題への問題意識を高める面白い問いかけだなあ。

もし学校にきまりがなかったら、みなさんはどうしますか？



「きまりや規則は何のためにあるのだろう。」という学習課題を設定して、次は教材提示だね。

二通の手紙

(遵法精神、公德心)

あらすじ

動物園職員の元さんは、幼い姉弟の思いを優先し、規則を破って姉弟を入園させた。その結果、母親からは感謝

の、園からは懲戒処分という二通の手紙を受け取った。二通の手紙を読んだ元さんは、晴れ晴れとした顔で職を辞し、動物園を去っていった。

まず、二通の手紙を受け取るまでを読んで、後半は後から提示する方法もあるよ。



発問例

- ① 姉弟を入園させた元さんを見て、佐々木さんはどう思ったでしょう。
- ② 姉弟の母親からの手紙を見せられて、佐々木さんはどう思ったでしょう。
- ③ (中心発問) 二通の手紙を前に、元さんが考えさせられたのはどんなことでしょう。
- ④ この話から、どのようなことを自分に生かせるでしょう。



発問は、場面ごとに佐々木さんや元さんの心情を問うのも一例だけど、道枝先生はどうするのか。

もしみんなが元さんだったら姉弟を入園させてあげますか？それとも断りますか？



まずはタブレットに自分の意見を入力してみてください。

これが道枝先生の中心発問だね。

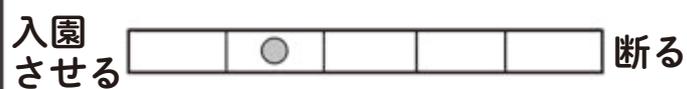
タブレットを使ってどうやって話し合うんだろう？



タブレットに入力することで自分の考えが明確になるし、ほかの人の考えもひと目で分かるんだね。



まず自分の考えと近い人と話し合い、その後に考えが異なる人と話し合うみたいだよ。





動物園で楽しく安全に過ごしてもらうために、規則は必要だと思う。

今日は姉弟にとって特別な日。姉弟の願いをかなえてあげたいな。

でも、幼い子どもだけで危険じゃないかな。

特に中学校では、先生はファシリテーターとして、生徒たちの対話を深める役割が求められるよ。



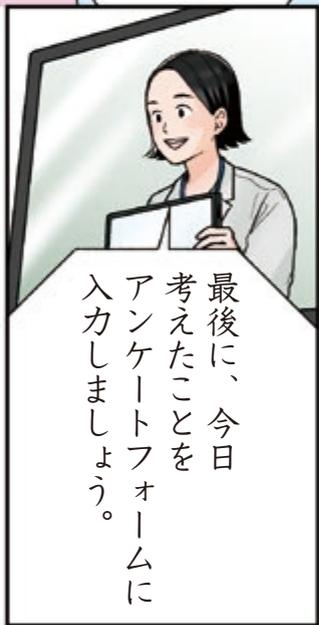
生徒同士で対話が進んでいるね。



次回はキャリア教育の扱い方についてご紹介!

そのうち、道枝先生とオンラインで共同授業できるといいね。

「教師と生徒」から「生徒同士」の対話への転換か。勉強になったなあ。



最後に、今日考えたことをアンケートフォームに入力しましょう。

道徳ジャーナル114号 令和4年8月発行

発行所 株式会社学研教育みらい 発行人 甲原 洋／編集人 梯ともみ
本誌のお問い合わせ先…小中教育事業部 〒141-8416 東京都品川区西五反田2-11-8
内容については…TEL (03) 6431-1565 (編集) それ以外のことは…TEL (03) 6431-1151 (販売)
「学研 学校教育ネット」 <https://gakkokyoiku.gakken.co.jp> ●「道徳ジャーナル」のPDF版および電子版は、WEBページから。
9300008477

LINE 公式アカウントのお知らせ
@おんたま先生 学研教育みらい
道徳や体育・保健体育、特別支援教育、ICT教育などの最新情報の配信や、先生のお悩みを投稿できるサービスを提供しています。
友達募集中!
QRコードをスキャンするとLINEの友達に追加されます。